

シニアマーケットを対象とした

# 最新のサプリメントの動き

辻 大作 株式会社バイオリック販売 代表取締役社長

サプリメントに関するご相談、お問い合わせも出来る限り対応させていただきます。

ホームページ<http://www.biolink-hanbai.com> TEL 06-6120-1508 までご連絡ください。

**世**の健康ブームをうけて栄養補助食品や健康茶など市場を賑わしている。アパレルの大手メーカーとして永年なじんだ企業が補助食品販売に乗り出した。ビールの製造企業だと思っていたメーカーが、いつか薬品の分野にも進出した。

大手を問わず、その他中小のサプライヤーを含めると、その数は計り知れない現状である。消費者のマーケットは大きいとしても、そのニーズには限界があるように思われる。今、後発メーカーを含め、サプリメント市場は製品のPRに躍起である。

◇筆者は大阪大学卒業後、永年化粧品やサプリメントの原料素材を求め世界各地の現地を訪問。その実態をとらえ研究を続けている。斯界の第一人者として広く評価されている。

## コエンザイムQ10

平成13年3月27日付の厚生労働省医薬局長通知「医薬品の範囲に関する基準の改正について」(医薬発第243号)による食薬区分の見直しによって、「医薬品的効能効果を標榜しない限り食品とみとめられる成分本質(原材料)」、リストに、新たに加えられた成分が現在の市場をにぎわしています。代表的なのが、コエンザイムQ10、 $\alpha$ -リポ酸、L-カルニチンです。コエンザイムQ10は昨年9月に民放が特集したのをきっかけに爆発的に人気が出て、国内原料がおおむね1キロ20万円だったのが、品薄状態に続き、昨年末には1キロ80万円でも買うというブローカーも出てきて、大変なこ

とになってしまいました。続いて $\alpha$ -リポ酸は同じく今年2月に民放が特集したのをきっかけに爆発的に人気で、一時品薄になりましたが、こちらは現在も低価格安定供給ができています。2匹目のドジョウはいなかった、ってところでしょうか？

## L-カルニチン

この原稿を書いている3月の後半にやはり同じくL-カルニチンを民放が特集するようです。こちらも3匹目のドジョウになる可能性が大ですが、そうは言ってもそれなりの人気が出ると思われます。これらの成分を民放では、老化防止(抗酸化)、中年太り解消に効果があると説

明し、特に中高年層をターゲットにした番組作りになっています。では、なぜ今までのサプリメント成分と違い、放送するたびに、その原料を使った店頭の商品が売れてしまうのでしょうか？

その理由は

- 1.以前厚生労働省が薬品と認めていたいわゆる、お薬成分だから。
- 2.放送の中で今までなら、「食品から補えます」と説明していたのに、今回は「食品では摂取量が少なすぎるので、サプリメントでしか補えない」と説明しているから。
- 3.老化防止(抗酸化)、中年太り解消に効果があると、シニアマーケットにダイレクトに呼びかけ、健康に不安を抱いているであろう層に購買意欲をかき立てているから。ということだと思われる。

## 化学合成、副作用

実際番組上は実にわかりやすい「人体実験」という方法で効果があったことを報告しているわけですから、ほしいと思うのは当たり前なわけで、さぞかし素晴らしい効果があるだろうと期待するわけです。しかし私が懸念するのは、

- 1.民放放送には、これらの成分の入ったサプリメントを販売したい、「スポンサー」がついているということ。

- 2.「医薬品の効能効果を標榜しない限り食品と認められる成分」であるにも関わらず、食品の範疇を逸脱した成分説明をおこなっていること。
- 3.これらの成分は天然素材から抽出するのではなく、むしろ化学合成によって製造をおこなっており、数十年後、あるいは数百年後に遺伝子レベルでどのような副作用が出るかわからない、ということ。

## 大手と中小の宣伝差

以上、不透明、あるいは不明確な要素もかなりあるということでしょうか。

もし、資金力の乏しい健康食品販売会社が同じような効能効果をうたって、商品販売をしたり、あるいは訪問販売、連鎖販売、キャッチセールスによる販売で人体実験の結果をみせ、効能効果を標榜させれば、近々に薬事法違反ないしは詐欺罪で訴えられるでしょう。本当に良いサプリメント成分はどれなのか、本当に自分に合ったサプリメントはなんなのか、見つけ出すのは困難だと思います。しかし、大手資本なら許されて、中小なら訴えられるような宣伝のしかたは疑問を持ったほうが良いと思います。メディアの一方的な内容を鵜呑みにし踊らされるのではなく、しっかりと自分の価値基準で商品や成分を選び、どの商品が価格的にあるいはコストパフォーマンス的に優れているかを選ぶ物差しと、インターネットやその他のメディアを活用することをお勧めします。